

【記録】新 JICA 中部に関する意見交換会

日時：2007 年 9 月 6 日（木）19：00 21：00

場所：名古屋 NGO センター事務所

意見・質問：名古屋 NGO センター加盟団体（当日参加は、相原理事、西井理事、西口）

回答：JICA 中部 友成連携促進チーム長 / 脇田市民参加協力調整員（青字の部分）

記録：名古屋 NGO センター

Q1：これまでも、新 JICA 中部は「市民参加」がキーワードになっている旨、お伺いしてきました。しかし、「市民参加」とは、一体どのようなことを意味するかが、見えにくいように思われます。これまでの文脈では、一般市民への広報や NGO との連携事業の促進のように思われますが、今後の NGO としての関わりを考える上での第一段階として、より具体的な定義を提示していただきたいと思います。

JICA にて「市民参加」の明確な定義づけはなされていない。しかし、国際協力機構法、また、「JICA 宣言」にて、明記されている。暫定的に、関係者間で協議・整理された「市民参加」を通じて目指すところ、および、具体的な事業内容は以下のとおり。

- （１）市民参加協力事業：NGO との連携（草の根技術協力事業）、開発教育支援、イベントなど広報
 - （２）日本の国内での活力増進：国際協力ボランティア活動（JOCV など）、技術協力への国民参加（草の根技術協力事業も含む）
 - （３）多様な国際協力の促進：研修、草の根技術協力事業、緊急援助、専門家による評価、受託事業
 - （４）国民の理解 / 関心の増進：開発教育
- それぞれに重複する部分もある。

以上の事業を通して、国際協力事業の多角化および重層化の促進に貢献すると考えられている。詳細は、以下のとおり。

- （A）草の根の視点：NGO、自治体との連携強化。例えば、草の根技術協力事業の事業終了時評価に、いりあい・よりあい・ネットワークの長畑氏に協力していただいている。
- （B）ボランティア、技術協力を両輪で促進する。
- （C）受託事業（草の根技術協力事業など、NGO の受託事業の増加）
- （D）開発教育の促進：JICA ネットなどを通じて、より幅の広い交流のチャンスを増やす。

Q2:(Q1と関連して)JICAの国内施設の一義的な目的は、研修であると理解してきました。上述の「市民参加」事業と研修事業の関連性については、どのようにお考えでしょうか。

独立行政法人となるまでは、この地域では、東海支部があり、そこでは、研修生の受け入れが主たる役割であり、「市民参加」はあくまで付帯的な機能であった。しかし、Q1の法律の改定に伴ない、「市民参加」を強く打ち出すようになっている。

今回の新JICA中部でも、研修事業と「市民参加」事業を、関連付けて考え、研修生に親日家になってほしいと考えている。具体的には、研修生が学校や地域の行事に積極的に参加できるようにしたり、研修生を活用したりして、広報の強化につとめたい。

Q3:(Q1と関連して)「市民参加」のコンセプトをJICA中部にて具現化するものとして、「地球ひろば」、JICAfe、フェアトレード商品の販売コーナー、市民参加ルーム(37平方メートル)や市民の方に活用してもらえるセミナールーム(4部屋)があるものと理解しています(この他にありましたら、ご教示ください)。

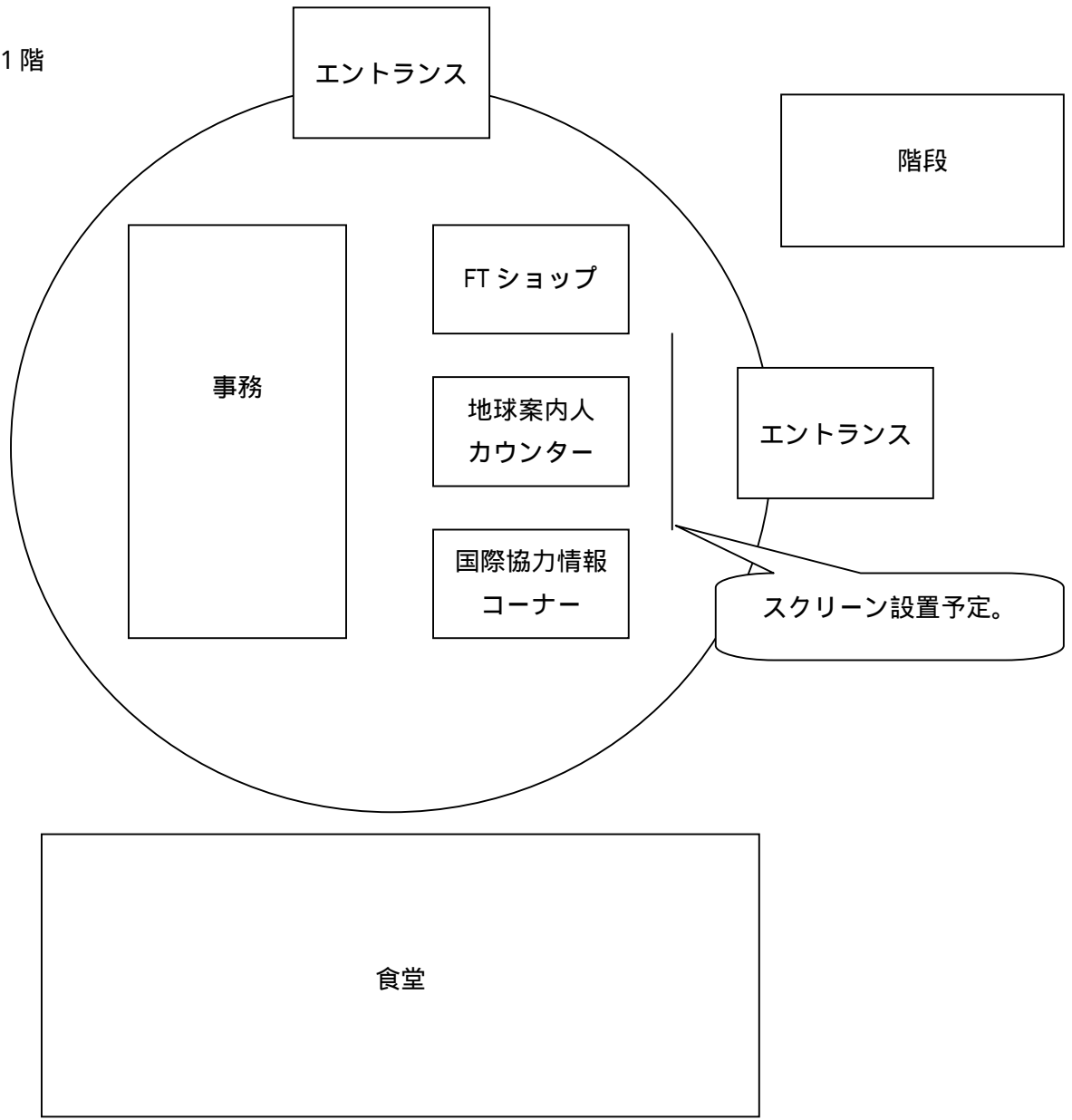
地域のNGOが、関わるということになると、物理的な要因、つまり、どんな規模でするのか(そのスペースにどれくらいの人を配置するのか、財政的なものは?)によって、その関わり方が大きく左右されてくると思います。現段階での、これらのスペースの進捗状況、および、今後の関わりを検討する上で必要となる制約をご提示いただきたく思います。

新JICA中部の1階には、基本的に、JICA広尾にある『地球ひろば』のサテライト機能を持たせる。以下の5つのゾーニングを行い、無関心層へ国際協力に対する理解を広める。

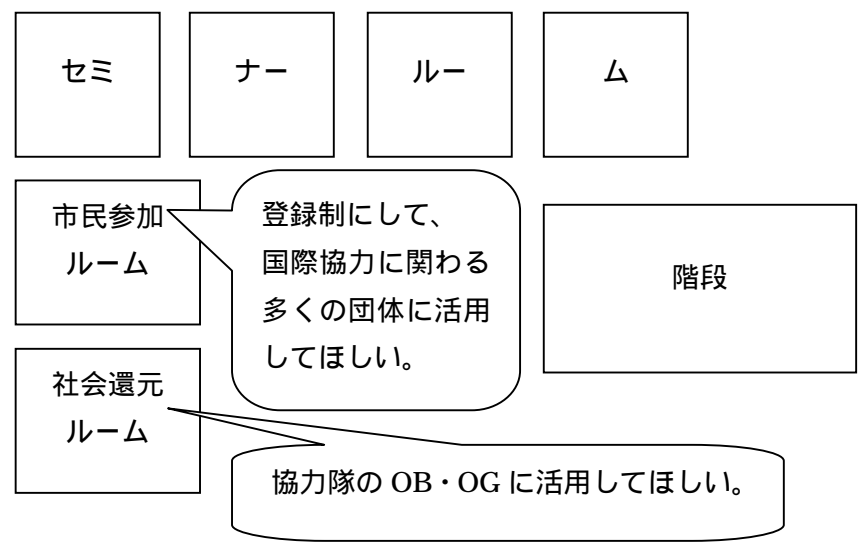
- (1)「見るゾーン」：パネル展示など。
- (2)「情報ゾーン」：国際協力情報コーナーを設置。ここにNGOの情報もそろえたい。
- (3)「体験ゾーン」：ミニイベントなどを通じて体験型の展示を行いたい。
- (4)「買い物ゾーン」：協力隊の派遣先の職業訓練などで作った物品を販売予定。
- (5)「食のゾーン」：現在、エスニック料理主体のレストランを計画中。

新JICA中部のターゲットは、国際協力の「無関心層」。これまでのJICAの広報、開発教育のターゲットは、効率性を考慮し、関心層であった。しかし、『地球ひろば』をおくことで、より広い層の方に、国際協力の1歩を踏み出してほしい。この中には、外国籍の人も含む。一方で、NGOとの連携を強化し、セミナーなどを行うことで既に興味・関心のある人にも、より深く国際協力について勉強する機会を提供していきたい。

1階



2階



なお、中部版の『地球ひろば』の管理運営を行うのは、広尾の『地球ひろば』を運営している団体と同じになる可能性が高いと考えられる(現在、広尾の運営を行っているのは、(社)青年海外協力協会[JOCA])。

Q4:(Q3と関連して)ハード面のみならず、ソフト面における進捗状況もお聞かせいただきたく思います。むしろ、これまでの説明会などでは、ソフト面でのコンセプトが見えづらかったように思います。

上記と答えが重なるので、個々の要望に対する返答を行いたい。

ご参考まで：今回の意見交換会に向けて加盟 NGO からあげられている要望

- ・ 貸し事務所の機能を持たせてほしい。現状では難しい。
- ・ 貸し会議室制度を作ってほしい。可能だが、セキュリティなどクリアすべき課題がある。登録制にして活用してもらえようようにしたい。
- ・ 「ひろば」に、「NGO コーナー」があると宣伝になってよい。「国際協力情報コーナー」にて、地域の NGO の情報も網羅したい。
- ・ フェアトレード(主に JICA の O G / O B が現地で支援した団体の商品になるらしいですが)コーナーを設けると聞いたので、そこにも一角スペースを設けてもらえると嬉しい。恒常的には、難しいが、Fair Trade Day など、特別にできるかも。
- ・ 今後、JICA と事業(草の根)を行っていくので、できるだけ団体を PR できる場があればよい。ぜひ PR してください。
- ・ NGO と市民をつなぐ場、イベントを作ってほしい(大人向けにも、子ども向けにも)。NGO だけでなく、財団法人愛知県国際交流協会(AIA)や財団法人名古屋国際センター(NIC)、ぎふ NPO センターや、愛知県国際課など、関係団体と連携を取り、イベント等に取り組みたい。例えば、現在名古屋 NGO センターと行っている「国際協力カレッジ」の発展形など)。広尾でも、NGO のイベントは集客につながっている。集客は実績につながる。集客の一環としても行いたい。
- ・ NGO のニュースレターやイベントのチラシを掲載できる、目立つ場所がほしい。チラシラックなどもあればよい。上記の国際協力情報コーナーに可能。
- ・ 映像が公開できるなら NGO の DVD も流してほしい。できます。
- ・ (今年度から広尾で開始されるような)NGO スタッフ向けの研修を行ってほしい(危機管理、ボランティア・コーディネート、広報など)。現在、本部でも大きな予算がついているので、可能かと思う。キャリア・セミナーなども実施したい。
- ・ アフリカなど一つのテーマを設け、NGO・JICA 研修生の双方がプレゼンできるような場、交流できるような場を作ってほしい。協力隊の O B ・ O G のバックアップと並行しつつ、行いたい。

Q5：（これまでの質問を踏まえ、また、これは協議事項としても）加盟NGOをはじめとする地域のNGOからの要望は今後、どのようなプロセスを経て、フィードバックがなされ、実現可能なものについては、一定の成果を結ぶようになるのでしょうか。

来年度夏の予算要求にて措置が取れるよう、2008年の年始から定期的な意見交換会を行いたい。ひとまずは、次回のNJ協議会（2007年12月1日、もしくは、2日に、JICA中部にて開催予定）にて、協議の部、もしくは意見交換の場が持てるようにし、次年へつなげていきたい。

以 上